

重点取組分野	令和 元 年度		総括	重点取組分野	令和 2 年度		総括	重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①子どもが獲得した知識を活用できるような学習指導の内容や教材を学年内で共有する。また高学年での教科担任制を継続し効果的な指導に取り組む。②協働的な学習の場を積極的に取り入れ、児童間の関わりを増やすことで自分の考えや、友達の見え方、考え方に気づきながら、思考力を伸ばす授業づくりをする。	①学年研究会等を充実させ、教材や指導法を共有することで授業改善につなげられていると思われる。教科担任制や算数少人数授業等を継続することで、児童の実態に合わせた授業を効果的に行うことができている。②協働的な学びをさまざまな授業で取り入れ、友達とのよい関わりの中で学びを深めることができている。	B	生きてはたらく知	①子どもが獲得した知識を活用できるような学習指導の内容や教材を学年内で共有する。また、高学年での教科担任制を継続し、効果的な指導に取り組む。②協働的な学習の場を積極的に取り入れ、子ども同士の関わりを増やすことで、自分の考えや友達の見え方、考え方に気づきながら思考力を伸ばす授業づくりをする。			生きてはたらく知	c1		
豊かな心	①YPAアセスメントと横浜プログラムを活用して一人ひとりの児童に寄り添った指導・支援を継続し自分や友だちの違いやよさを認め合える関係づくりを進める。②道徳の授業において、児童が主体的に考え道徳的価値をとらえられる授業づくりをする。③あいさつ運動を継続し、自ら積極的にあいさつができるようにする。	①YPAアセスメント支援検討会を充実させ、児童理解を深めることができ、よりよい関係づくりに生かされている。②主体的に考え道徳的価値をとらえられる授業の進め方が共有されている。③あいさつレベルやあいさつ言葉について話し合い、自分から挨拶できるように進めてきた。積極的にあいさつできる子どもを増やしていくことが課題である。	B	豊かな心	①YPAアセスメントと横浜プログラムを活用して、一人ひとりの子どもに寄り添った指導・支援を継続し、自分や友だちの違いやよさを認め合える関係づくりを進める。②道徳の授業において、子どもが主体的に考え道徳的価値をとらえられる授業づくりをする。③自らあいさつできる子どもの姿を目指し、あいさつ運動の取組を継続する。			豊かな心	c2		
健やかな体	①体育朝会や体育の授業で、年間を通して運動に親しむ環境をつくる。(縄跳び・運動遊びの充実、体育集会等)②地域の教育力を活用し、中休みスポーツを実施し、児童が運動する喜びや楽しさを体感できるようにする。③児童の委員会活動を中心に、食の大切さを理解するための取組を実践する。	①縄跳びや運動遊びを体育朝会や授業等で紹介し、運動に親しめるようにしてきた。②中休みスポーツは定着してきている。地域の方々とのよい関わりの中で運動する楽しさを体感する場となっている。③食の大切さを理解するための取り組みについては、家庭と連携し、食に関する学習をもつなげより効果的な方法を考えしていく必要がある。	B	健やかな体	①体育朝会や体育の授業で、年間を通して運動に親しむ環境をつくる。(縄跳び・運動遊びの充実・体育集会等)②地域の教育力を活用し、中休みスポーツを実施し、児童が運動する喜びや楽しさを体感できるようにする。③児童が自ら健康を保持促進しようとする態度を育成する。			健やかな体	c3		
コミュニケーション能力	①なかよしタイムやベア掃除など異学年と関わる機会を通して、コミュニケーション能力を育てる。②なかよしフェスティバルや、6年生の国際スピーチコンテストなど、自分の考えや学習したことを伝える活動を通して、自分の考えを効果的に伝える話し方や表現方法を学ぶ。③様々な教科の学習の中で、自分の考えを友達と交流したり、学習の振り返りをしたりする機会を多く設け、自分の考えを伝える力を育てていく。	①学校のスローガンの中にも異学年交流という言葉が入り、各委員会などでも実現に向けての活動が様々な形で実施された。②なかよしフェスティバルでは、自分たちの活動について報告した。踊りや発表など様々な方法で表現した。③学習の中で友達と意見を交流する機会を多くした。高学年では「えんたくん」を用いて交流する方法が有効であった。	B	コミュニケーション能力	①なかよしタイムやベア清掃など異学年と関わる機会を通して、コミュニケーション能力を育てる。②なかよしフェスティバル等、様々な場面で自分の考えや学習したことを伝える活動を通して、自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶ。③自分の考えを友達と交流したり、学習の振り返りをしたりする機会を多く設け、自分の考えを伝える力を育てる。			コミュニケーション能力	c4		
考えて行動する力	①高舟台小学校として、「考えて行動する」という資質・能力を身につけるための手立てや活動を整理し、各教科を横断的にとらえたカリキュラムを再構成する。考えて行動する力を育成するために再構成されたカリキュラムのもとで、学校全体として様々な教科の中で手立てを打ちながら、その資質・能力を育てていく。	①学校として「考えて行動する」という資質・能力を身につけるために、各教科のどの単元でどの資質・能力を重点的に取り組むかマスタープランに落とし込んだ。またその資質・能力を身につけるための活動例や、手立てをもとめることができた。今後はそれらをどのように運用していくかが課題である。	B	考えて行動する力	①高舟台小学校として「考えて行動する」という資質・能力を身につけるための手立てや活動を整理し、各教科領域を横断的にとらえたカリキュラムを再構成する。考えて行動する力を育成するために再構成されたカリキュラムのもとで、学校全体として様々な手立てを講じ、その資質・能力を育てていく。			考えて行動する力	c5		
地域連携	①まちとともに歩む学校づくり懇話会を年2回実施。授業参観や子どもと給食と一緒に食べることで、学校の実態を知ってもらい、社会とつながる学校をめざす。②中休みスポーツや行事等で地域の人と積極的にかわり、地域とともに歩む子どもを育てる。③太鼓クラブや合唱部をはじめ、教職員も地域行事に参加し、地域の方と顔の見える関係を築く。④生活科や総合的な学習の時間では、単元構想シートを活用し、子どもの実態や願いを明らかにしながら学習を展開していく。また、地域の「材(ひと・もの・こと)」についての学習の中で関わり方や、その価値について考え、子どもたちが主体的に取り組む、広く社会を見渡し、自分のできることを実践できるように取り組んでいく。	①まちとともに歩む学校づくり懇話会を、来年度より学校運営協議会に移行の準備に入り、より連携を深めたい。②中休みスポーツや生活科・総合等で地域の方と一緒に活動する場面はあったが、単年で終わる継続できないのが課題。人材バンクを作って毎年開かれるようにしていきたい。③太鼓クラブの活躍は定着している。新しい教職員が増える中、地域とのつながりをつくる努力を行った。④クロス総合を進める中で、様々な人とコミュニケーションは試みたが、子どもたちが自主的に取り組み、社会に貢献することは、今後の課題である。	B	地域連携	①まちとともに歩む学校づくり懇話会を年2回実施。授業参観や子どもと給食と一緒に食べることで、学校の実態を知ってもらい、社会とつながる学校を目指す。②中休みスポーツや行事等で地域の人と積極的にかわり、地域とともに歩む子どもを育てる。③太鼓クラブ、合唱部をはじめ、教職員も地域行事に参加し、地域の方と顔の見える関係を築く。④生活科や総合的な学習の時間では、単元構想シートや人材バンクを活用し、子どもの実態や願いを明らかにしながら学習を展開していく。また、地域の「材(ひと・もの・こと)」について学習の中で関わり方や、その価値について考え、子どもたちが主体的に取り組んだり、広く社会を見渡し、自分のできることを実践したりできるようにしていく。			地域連携	c6		
児童生徒指導	①「こども手帳」をスタンダードとして、学校のきまりを理解して守っていくことで、誰もが安心して学校生活を送ることができるよう指導する。②毎月の朝会で生活目標・給食目標を確認して、楽しく学校生活が送れるようにする。③ケース会議などで児童の状況を共有し、児童理解を深めた上で支援体制を取る。	①児童指導のメンバーを中心とし、「こども手帳」をより活用しやすいように見直しした。子どもたちは、学校の決まりを理解し守ることができている。②司会の担当者が生活目標について話し、周知した。③支援が必要な児童について、ケース会議を行うことで支援体制を整えて支援することができた。	A	児童生徒指導	①「こども手帳」をスタンダードとして、学校のきまりを理解して守っていくことで、誰もが安心して学校生活を送ることができるよう指導する。②毎月の朝会で生活目標・給食目標を確認して、楽しく学校生活が送れるようにする。③ケース会議などで状況を共有し、児童理解を深めた上で支援体制を取る。			児童生徒指導	c7		
特別支援教育	①校内特別支援教育委員会を適宜開催し、配慮を要する子への共通理解を深め、特別支援教室(なかよしルーム)での支援を効果的に行う。②一人ひとりのニーズに合わせた個別に支援計画・個別の指導計画を確実に作成し、保護者の理解と進級・進学への引きをしっかりと行い、切れ目のない支援を行う。③個別支援学級と一般学級の児童における、ねらいを明確にした交流及び共同学習。	①特別支援教室対象児童は個々にアセスメントシートを作り、人数を精選した結果、一人一人に手厚い支援が行き渡るようになった。②個別の支援計画・指導計画が新しくなるにあたって、作成の手順や保護者への周知を再度確認し、効果的な支援が行われた。③個別支援学級と一般学級は密に連絡を取り合い、スムーズな交流ができた。	A	特別支援教育	①校内特別支援教育委員会を適宜開催し、配慮を要する子への共通理解を深め、特別支援教室(なかよしルーム)での支援を効果的に行う。②一人ひとりのニーズに合わせた個別の支援計画・個別の指導計画を確実に作成し、保護者の理解と進級・進学に努める。③個別支援学級と一般学級のねらいを明確にした交流及び共同学習を継続する。			特別支援教育	c8		
いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、全教職員で認知された案件の経過確認をいじめに行うことで再発防止に努める。②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、年4回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。③「お話し月間」として9月～10月に、担任と全児童との面談を実施することで、一人ひとりが抱える問題を早期に発見し対応できるよう努める。	①いじめ防止対策委員会では、いじめ事案で認知した件を全職員で共有し、3か月以降に解消した。②年4回の児童アンケートでは、学校生活について一人ひとりの実態を把握し、児童理解や児童支援に役立てた。③お話し月間は、1月に実施し一人ひとりが抱える問題の早期発見や初期対応を心掛け、実践することができた。	A	いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、全教職員で認知された案件の経過確認をいじめに行うことで再発防止に努める。②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、年4回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。③アンケートをもとに、担任と全児童との面談を実施することで、一人ひとりが抱える問題を早期に発見し対応できるよう努める。			いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①会議運営や書類作成等、全ての業務を業務改善の視点から見直し積極的に改善する。情報共有しやす居心地の良い場となるよう、助け合い支え合える職員室づくりをする。②メンターチーム研修会を積極的に開催し、若手教員の育成に努める。また企画会を中心に、学校経営の課題を洗い出し、各部署ごとに丁寧に対応する。③若手教員が多様な校務を経験できるようにし、広く学校運営に参画できるようにする。	①会議運営や書類作成等の改善が進み、情報共有しやす居心地の良い場となっている。②メンター研修会は若手教員を中心に行った。2年次研の代表授業を受け進んで共に学び、積極的に校務にかかわろうとしている。経営計画反省では、各部において課題から改善案をまとめ、対話を重ねて業務改善の視野からもよりよい方向性を見出ししている。	A	人材育成・組織運営(働き方改革)	①会議運営や書類作成等、全ての業務を業務改善の視点から見直し積極的に改善する。情報共有しやす居心地の良い場となるよう、助け合い支え合える職員室づくりをする。②メンターチーム研修会を勤務時間内に定期的に設定し、若手教員の育成に努める。③企画会を中心に、学校経営の課題を洗い出し、各部署ごとに丁寧に対応する。選択と集中を行う中で、本当に必要な取組を残しつつ持続可能な学校経営を実現させる。また、若手教員が様々な校務を経験できるようにする。			人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き	今年度は本校が幹事校であった。研究会では9年間で育成を目指す資質・能力「人とのかわり・つながり」を「コミュニケーション能力を大切にしながら、認め合い・高めあう力」を各教科でどう伸ばすか、具体的な手立てを事前に話し合い、ブロック内研究授業に生かしていった。また、各校で作成している「ぐるぐる」や「カリマナ」を持ち寄って、研鑽をつんだ。学校評価については、今年度、項目を変更したので昨年と比べられないが、いじめ防止対策委員会と特別支援の在り方、こども手帳スタンダードは本校の強みと評価された。地域連携や情報公開については改善の余地があり、地域ボランティアの登録やホームページ更新の仕方については他校に学ぶことがあった。			ブロック内評価後の気付き				ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価	素直で思いやりのある子、気づきができる心やさしい子が多い。授業の様子を参観して、子ども達のひのひと相手を尊重しながら学習しているのが感じられた。6年生の総合「まちのよさを込めて～高小令和ソランを創ろう～」のような取組は、学校の伝統としてぜひ残ってほしい。成長した姿を見て感動した。生活科や総合などで地域との交流は、その年度だけでなく継続していくとよいという感想もあった。高学年になると外遊びが減っていることについて、地域の公園で遊んでいる子どもたちの様子も同じ。遊び方についても、もっと子ども同士がうまく関わり合いながら遊べるように見守ってほしい。			学校関係者評価				学校関係者評価			
中期取組目標振り返り	今年度校長として本校に着任し、2つの中学校ブロックにまたがる小中連携や地域連携の難しさを当初は感じていた。職員と共に両ブロックの情報を得られることを利点と捉え教育活動を展開する中で、両ブロックの育つたい資質・能力を共有しつつ、本校として特に力を入れて育てることを明確にしていくことができたと感じる。本校での特別支援・児童指導に関する取り組みは特に手厚く、インクルーシブ教育としてさらに発展できると感じる。今後は地域のよさをより取り入れた「社会に開かれた教育課程」の実践に向け、連携や情報発信の手立ての工夫が必要である。今後は近隣幼稚園保育園とも、12年間の子どもの育つ姿の共有も図れるとよい。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り			